

2016年度 自己点検・評価【教育学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-1	教育学部の理念 教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。 (Webサイト)	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。	
A-2	教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上) 教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育研究と人材養成のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、教育の本質や理論の学習を基礎に、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」に基づいて現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。	教育学部の目的(Webサイト上) 上記の3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	めざす学生像 子どもの成長・発達を見ていくためには、幼児期の発達を十分に理解した上で、児童期、思春期へと理解を積み上げていく必要があります。教育学部では、「子ども理解」を基本理念とし、幼児教育、初等教育、教育科学の3つのコースが連携し、教育に関する理論の学習と教育現場での実習をバランスよく繰り返すことで、実践力、教育力、人間力の3つの力を備えた質の高い教育者を養成します。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。	
	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP) [関心・意欲・態度] ① 自らを律する主体としての強さを身につけ、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身に付けている ② 教育に対する強い情熱や子どもへの愛情をもった態度で、幅広い教育現場で実践に臨むことができる [思考・判断] ① 幅広い教養に基づいた判断力と広い視野を持っている ② 専門的知識の習得や他者との学び合いから思考を発展させることができる ③ 人権意識をもった行動ができる [技能・表現] ① 子どもや教育に関する課題を発見し、取り組み、解決できる ② 専門性の能力を活用して子どもへの教育と支援ができる ③ 日本語や外国語を用いて他者と円滑にコミュニケーションできる力を身に付けている(KG学士力を参考) [知識・理解] ① 乳幼児期から児童期・青年期までの子どもの発達を体系的に理解している ② 乳幼児教育・学校教育・幅広い社会の教育活動や実践を理解している	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。	

2016年度 自己点検・評価【教育学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年 2月 23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 教育学部の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「教育学部の目的(Webサイト上)」は、A-2「教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「教育学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「教育学部の目的(Webサイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:教育学部長)
	検証手続き	将来構想委員会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年3月
	検証エビデンス	教授会・議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年 月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:2017年 3月)	
検証プロセス	検証方法	成果指標(教育学部カリキュラム改編の進捗状況)を定めて現状を把握の上、将来構想委員会において課題を整理している。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) Mastery for Serviceの精神を「教育」に焦点づけ、世界市民の一員として、「人を育てる人となる」ことに使命を感じ、そのように自らを育てる力量を育成すること。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	(狙い・内容) 基礎演習とチャペルアワーとの連携による自校学習メニューの構築。 教育学教育・教育者育成においてMastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会を組織化する。	
目標2	(タイトル) 「教育とは何か」「人間とは何か」を不断に問いつつ、自ら理論と実践を往還し、教育学的思慮深さと機転に富んだ教育者としての実践的行動力の基礎を育成すること。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し ※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。
	(狙い・内容) 新カリキュラムの全体としての理念を「学びの共同体」を通じて実現できるように、各授業でのアクティヴ・ラーニングの導入をすすめるため、「協同学習室」の利用率を高める。 教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化と参加率の向上。	

A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄						
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ						
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ						
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ						
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:教育学部長)						
	検証手続き	FD委員会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。						
	決定・判断時期	毎年3月						
	検証エビデンス	教授会・議事録						
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)							
検証プロセス	検証方法	成果指標(体系的なカリキュラムの作成)を定めて現状を把握の上、将来構想委員会において課題を整理している。						
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="border: none;">→</td> <td style="border: none;"><input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">→</td> <td style="border: none;"><input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">→</td> <td style="border: none;"><input type="checkbox"/>その他 ()</td> </tr> </table>	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)	→	<input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:)	→	<input type="checkbox"/> その他 ()
	→	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。)						
→	<input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:)							
→	<input type="checkbox"/> その他 ()							
判断根拠	教授会・議事録							
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()							

2016 年度 自己点検・評価 【教育学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年 2月 23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-4	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
	<p>教育学部は、学部の教育目標を達成するために学位授与の方針(DP)に基づいた科目群を系統的に配置している。専門教育科目には、教員免許・保育士資格取得のために、免許・資格取得に必要な科目を配置している。</p> <p>総合教育科目 [キリスト教科目] 建学の精神の前提となるキリスト教についての概括的な理解を与え、また、宗教性を背景とする人間とその広範な営みとしての文化の在り方についての深い洞察力をもたせるための科目</p> <p>[言語教育科目] 外国語によるコミュニケーション能力を育成するための科目</p> <p>[情報科学科目] コンピュータ・リテラシーの基礎を学ぶための科目</p> <p>[教養教育科目] 教育学研究の基礎となる幅広い教養と知識を身につけるための科目</p> <p>専門教育科目 [学部共通専門教育科目] 基礎演習や研究演習のようにゼミ活動を伴い大学に置ける学びの基礎と応用を主とする演習科目、教員免許取得のために法令上必要な教職に関する科目のうち全学校種に共通して必要な科目、現行の臨床教育学科のコア科目、特別支援学校教員免許取得に必要な科目、学部全体の教育に関わる科目</p> <p>[幼児教育コース・初等教育コース共通専門教育科目] 小学校教員免許取得に必要な教科に関する科目のうち幼稚園教員免許のための教科に関する科目とすることが可能な科目</p> <p>[幼児教育コース専門教育科目] 幼稚園教員免許および保育士資格取得に必要な科目</p> <p>[初等教育コース専門教育科目] 小学校教員免許取得に必要な科目</p> <p>教育科学コース専門教育科目 [教育科学コースコア科目] 教育科学の諸領域について学ぶための科目</p> <p>[教育科学コース教職関連科目] 中学校・高等学校の教員免許取得に必要な科目</p>	<p><input type="checkbox"/>有り <input checked="" type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

2016年度 自己点検・評価【教育学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年 2月 23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:教育学部長)
	検証手続き	学部教務員会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年3月
	検証エビデンス	教授会・議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年 月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:2017年 3月)
検証プロセス	検証方法	成果指標(免許・資格取得者数)を定めて現状を把握の上、将来構想委員会において課題を整理している。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div> </div>
	判断根拠	免許・資格申請数調査の結果
	周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)	変更の有無
<p>【関西学院大学(学士課程)】</p> <p>I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー</p> <p>世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。</p> <p>関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦を続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。</p> <p>そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。</p> <p>II. 各学部のアドミッション・ポリシー</p> <p>(略)</p> <p>教育学部アドミッション・ポリシー</p> <p>教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を受け入れることを基本方針としています。</p> <p>より具体的には、教育学部は、教育という営みに幅広い関心を持ち、かつ学校、幼稚園、保育所など教育・保育現場や広く社会における教育の諸活動にかかわり、問題解決ができる実践家を目指す者を受け入れたいと考えています。</p> <p>教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。</p> <p>以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において評価しています。</p> <p>(略)</p> <p>III. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー</p> <p>1. 一般選抜入学試験</p> <p>一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。</p> <p>一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。</p> <p>全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述型」による入学試験も実施しています。</p> <p>学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」に記述式を探り入れ必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。</p> <p>理系入学試験においては全学日程・学部個別日程ともに、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、「理科(記述式)」「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。</p> <p>一般入学試験関学独自方式日程は、英語・数学科型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学科型は、関西学院大学独自の「英語」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語」または「数学」に、大学入試センター試験の教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。</p> <p>大学入試センター試験を利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入試センター試験で実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、文系学部が「英語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理工学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。3月出願においては、文系学部が「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。</p> <p>また、大学入試センター試験を利用する入学試験(1月出願 英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入試センター試験の教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。</p>	<p>変更の有無</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>有り <input type="checkbox"/>無し</p> <p>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</p>

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日：2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に5つのカテゴリーで実施する入学試験です。

国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際社会貢献活動プログラムに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR B2以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問では英語によるプレゼンテーションと面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力を評価します。適性面接審査においては、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを面接を通じて評価しています。二次審査では志望する学部との面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験

英語能力、国際経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。出願資格として、英語検定試験において(CEFR B1程度以上)を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。また、英語を題材とした論述筆記試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一校校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式)

グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである(グローバルキャリア・プログラム)において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック4題のうち、2題を選択し、それぞれ英語300語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、個人面接を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し調査書等提出された書類とあわせて「主体性」を中心に書類審査を行います。筆記審査は英語、数学、理科(物理・化学・生物のうち1科目選択)により行います。これらの教科・科目における基本的な学力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果とあわせて第一次審査を行います。面接審査では志望する学科の学びに関する口頭試問や、学ぶ意欲、人間性を評価し、一次審査の結果と合わせて総合的に評価し選抜を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、推薦書、志望理由書等の提出書類による書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

院内推薦入学

1) 関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

2) 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

協定校推薦入学

1) キリスト教学校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

2) グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

3) グローバル+キリスト教校校

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるためだけでなく、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価します。

指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

(略)

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

(略)

4. 公募制推薦入学試験

1) スーパーグローバルハイスクール・教育連携校対象公募推薦入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育てることを使命としています。

2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。

このスーパーグローバルハイスクールや本学が教育連携を行う高等学校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための公募推薦入学試験を実施します。一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーションを行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多角的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

2)スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験

(スーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験)

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー Mastery for Service を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。また関西学院大学理工学部は、自然科学の基礎知識・技能と柔軟な思考力を有しその能力を高い倫理観のもとで発揮しうる、課題発見・解決能力に優れ創造性と未知に挑戦する気概に溢れた人材の育成を目指しています。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。

スーパーサイエンスハイスクール課題研究等を通じて高められた科学的能力と強い勉学意欲を有する生徒を本推薦入学試験によって求め、その能力に関西学院大学理工学部の教育によりさらに向上させ、将来国際的に活躍しうる科学技術系人材に育成することを目的としスーパーサイエンスハイスクール対象公募推薦入学試験を実施します。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において面接を中心にしながら工夫をこらした審査を行い、課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多角的に評価します。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

(略)

5. AO入学試験

関西学院大学のスクールモットーは「Mastery for Service(奉仕のための練達)」。これは、第4代院長C.J.L. ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。

本学が目指す全人教育は、専門知識の修得だけでなく、その専門知識を社会の善として活用し人類の幸福に資する知識とするための教育です。そのためには、知育教育だけでなく、スポーツや芸術などの情操教育や社会貢献活動などが大きな役割を果たします。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

AO入学試験は、従来の教科科目の筆記試験だけでは測ることができない多様な能力や、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性、あるいは将来性・可能性などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の観点から多面的かつ積極的に評価する制度です。本学のAO入学試験は、各学部が独自のアドミッション・ポリシーを掲げてそれぞれの審査方法で選考する方式であり、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、各学部が定める受験資格を満たしていれば、自分の意志で出願できる自己推薦型です。

(略)

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志を持つ者を受け入れることを基本方針としています。

教育は人間の心に深く関係する営みであるとともに、教員・保育者は子どもとのかかわりや保護者とのかかわりも密です。それら他者とのかかわりを維持し、発展させるために必要な能力の基礎となる読解力と論理的思考を含んだ基礎的な学力を有する者を受け入れます。また、「教育者」となる資質として、基本となる教科を幅広く学習している者、特定の分野における優れた学力や能力を持ち、さらに入学後に学力の伸長が期待できる者を受け入れます。

以上を募集方針の要素として、多様な能力を評価するAO入試を実施します。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を書類審査、筆記試験(英語論述審査・課題小論文審査)、グループディスカッション等および、個人面接を行い、総合的に評価します。

(略)

6. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正當に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多角的入試」の一環として行っています。諸外国で勉強してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接試験において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

7. 国連難民高等弁務官駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験

「難民を対象とする推薦入学制度」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所の推薦に基づき、面接を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年 2月 23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

8. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験 関西学院大学スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験 この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接審査を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。 (略)	
---	--

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	入試委員会
	検証手続き	自己点検・評価委員会および教授会での審議を経て、入試委員会で承認する。
	決定・判断時期	随時
	検証エビデンス	入試委員会議事録
前回の構票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2016年 10月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法	成果指標(入学試験募集要項の決定)を定めて現状を把握の上、学部入試制度検討委員会において課題を整理している。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

提出日:2017年 2月 23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
2016年度中に検討予定		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
<p>学びの組織的な支援 教育のあらゆる現場で即戦力として活躍するには、4年間でどれだけ多くの現場を経験できたかが重要です。教育学部のカリキュラムでは、1年生から参加できる実習科目やフィールドワークを多く設けています。講義で学んだ知識を教育現場でどのように生かせるのか。現場での経験が着実に教育者としての力を育みます。実習前の事前指導やオリエンテーションでは、目的の確認や自己課題を設定するほか、実習における心構えや注意点を指導します。実習中は指導教員が訪問指導で学生をサポートし、実習後の事後指導ではディスカッションで実習を振り返り、実習で得た成果を身に付けます。</p> <p>初年次教育 教育学部では、1年次に全員必修の「基礎演習」を開講しています。この「基礎演習」では、今後、大学生活の中で学習を進めていく上で求められる意識転換と、具体的に求められる学習上の技術を身につけることを目標としています。高校生から大学生への意識転換を促し、大学にある施設の機能の理解とそれらを利用しての学習方法や、今後、大学教育の中で求められる課題への取り組み方と、その方法の基礎を身につけさせます。また、何のために教育職につこうとするのか、それにはどんな能力が求められるのかなど今後の大学生活の中の自己課題を発見することを促します。 具体的には、教育に対する広範な学問的関心のあり方を重視しながら、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学関係の学術的な文章を理解する 2. 教育問題について理論的に考え文章で表現する 3. 自分の考えをまとめ発表する 4. 図書館を利用して教育研究に必要な情報を得る などのことを学ぶこととしています。 <p>TA・RA・SA・メンターの活用 関西学院大学では、2012年度秋学期より、新たな教育・学習支援の取り組みとして、ラーニング・アシスタント(LA)制度を全学的に導入しています。LAは関西学院大学で提供される科目を対象として、授業担当者の授業運営を補佐し、履修学生の指導や相談をとおして教育および学習の支援を行う学部学生スタッフです。教育学部では、この新たな試みを通じて、LAと履修学生とが共に学ぶ「ラーニング・コミュニティ」の形成と、LA自身のさらなる自己成長を期待して、本取組を推進していきたいと考えています。</p> <p>アカデミックアドバイザー制度 毎年、学生の年間単位修得状況により、その段階に応じて学生のみまたは学生及び保証人に面談を行います。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>	
<p>修学支援</p>	<p>学生生活支援 ・奨学金制度(大学・大学院) ・教育ローンについて ・災害に伴う授業料等の減免 ・学生生活への援助 ・大学生協など</p> <p>・西宮聖和キャンパスキャリアセンター(西宮上ヶ原キャンパスキャリアセンターが全学部生対象の支援をしているのに対し、西宮聖和キャンパスキャリアセンターは主に教員・保育士を目指す教育学部生を支援しています。 西宮聖和キャンパスキャリアセンターにおいては、西宮聖和キャンパスにある教育学部生のための支援という特徴を生かし、一人ひとりのニーズにあった支援をモットーに業務を行っています。一人ひとりの学生の皆さんと向き合う中で、合格するためのテクニックではなく“先生になりたい”という熱い思いを伸ばす支援を心がけています。)</p> <p>(主な支援プログラム) 個別進路就職相談 教員・保育士就職ガイダンス 就職試験直前マナー講座 論文文講座 履歴書・願書作成の個別面談 個人面接練習 集団面接・集団討論練習 模擬授業練習 模擬保育練習 外部講師による筆記試験対策講座)</p> <p>・教育指導者育成 未来塾(教員や保育士をめざす学生を対象に、「教育指導者育成 未来塾」を開講しています。本講座は2年生の秋学期と3年生春学期の2つのステージに分かれており、2年生秋学期の1stステージでは、高い志と情熱にあふれる教員・保育士を育成するために学内外の講師からさまざまな知識や技術を学びます。3年生春学期の2ndステージでは、教員や保育士の採用試験のための実践的な対策を展開。この講座をとおして、学生がお互いに励まし合って学びと 技を深めることをめざしています。)</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
<p>生活支援</p>	<p>進路支援</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

2016年度 自己点検・評価【教育学部】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ~検証状況の確認~

提出日:2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性及び検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (下記のことが明らかであることに留意する。) <修学支援> ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処 ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施 ・障がい学生に対する修学支援の実施 ・奨学金等の経済的支援の実施 <生活支援> ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内 ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み </div>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:教育学部長)
	検証手続き	学部長室会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年3月
	検証エビデンス	教授会・議事録
前回の横票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年 月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:2017年 3月)	
検証プロセス	検証方法	成果指標(学籍異動状況、奨学金採用状況)を定めて現状を把握の上、学部長室会において課題を整理している。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。 (見直し計画:) <input type="checkbox"/>その他 () </div>
	判断根拠	IR調査の結果
周知・公表方法	<input type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()	

2016年度 自己点検・評価【教育学部】

A票


<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
～検証状況の確認～

提出日:2017年 2月 23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

A-7

教員像		変更の有無
2016年度中に検討		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>
無しの場合どのように設定するか？	責任主体・組織	学部教授会
	設定方法	将来構想委員会での審議を経て、教授会において承認する。
	設定見込み時期	2017年度
教員組織の編制方針		変更の有無
定年退職予定者の後任人事を視野に入れながら、将来構想との関連において、免許・資格課程の教員組織のみではなく、学部全体の教員組織の適切性を検討する。		<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し <small>※「有り」の場合は「変更点記述シート」を記入のこと。</small>

A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(承認・決裁)	教授会(議長:学部長)
	検証手続き	将来構想委員会での審議を経て、毎年3月の教授会において決裁・承認している。
	決定・判断時期	毎年3月
	検証エビデンス	教授会・議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(年 月) <input checked="" type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定:2017年 3月)	
検証プロセス	検証方法	成果指標(専任教員の中長期人事計画)を定めて現状を把握の上、将来構想委員会において課題を整理している。
	検証結果	<input type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">  </div> <input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票の内容を書き換えた。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画:) <input type="checkbox"/> その他 ()
	判断根拠	学校基本調査の結果
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ()	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート
 ～検証状況の確認～

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

※評価専門委員会・第三者評価結果 2017年1月27日公示

- ・「学生支援の方針」が策定されることが望まれます。
- ・「教員像」が策定されることが望まれます。特にB票で課題として挙げられている年齢バランスの偏りや教員意識の温度差の部分について考慮されることが期待されます。(A)
- ・学生支援に関する方針は、「2016年度中に検討予定」となっています。予定通りに検討して、明らかにすることが期待されます。
- ・教員像は、「2016年度中に検討」となっています。予定通りに検討して、明らかにすることが期待されます。
- ・「教育課程の編成・実施方針」の記述内容は、主に現行のカリキュラムの実態を説明するものです。学位授与方針に示された能力を課程修了までに身につけるための教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方を説明するものとすることが望まれます。
- ・教員組織の編制方針は、主として今後の教員採用についての現実的な考え方が示されていますが、教育学部の理念、目的を実現するために必要と考えられる教員組織のあり方についての基本的考え方を記述することが期待されます。(B)
- ・A-3「教育研究目標」、A-5の「学生の受け入れ方針」以外はまだ検証がなされておらず、いずれも今年度末に検証が行われる予定になっていますが、着実に検証がなされることを希望いたします。(D)
- ・入学者受入れの方針において学力の3要素が触れられていますが、具体的にどういった学修成果が求められているのかわかりづらいようです。第3期認証評価を見据えて、受験生にわかりやすい表現が期待されます。
- ・本年度3月に実施が予定されている、A-1、A-2、A-4、A-6、A-7の検証を通じた適切な改善活動が期待されます。(E)
- ・DP、CPそれぞれはきっちりと書かれている印象ですが、両者の関係性は明確ではないように見受けられます。今後3ポリシーの関係性が問われることが予想されますので、引き続き検討が進められることが期待されます。
- ・教員組織の編制方針について、具体的にどのような視点に基づいた組織編制を行っているのか、適切性を確認しているのか、今後具体的な内容が検討されることを望みます。(G)
- ・A票のA-7の確認1と2において「いいえ」となっています。(H)
- ・概ね適切な自己評価がされています。
- ・検証プロセスのエビデンスとしては、各種委員会の記録を提示することが望まれます。(I)

2016年度 自己点検・評価【教育学部】

A票変更点
記述シート

<A票変更点記述シート>

提出日:2017年2月23日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

【A票変更点記入欄】

項目名	A-5 学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー;AP)
変更内容とその理由	<変更内容> 別紙参照
	<変更理由> ・2015年度に設定した際に記載漏れのあった入試形態のアドミッション・ポリシーを追記したため ・文体の統一のため

<評価専門委員会・第三者評価結果記入欄>

- ・変更内容とその理由については適切です。(1)